

綾瀬市立綾北中学校

研究テーマ：持続可能な社会に向けた価値観をもった生徒の育成～「他者を尊重し学び合える生徒」を育てる～

1 実践の目的

本校は外国につながるのある生徒の割合が非常に高く、さらに4つの小学校区から進学してくる「多様性の空間」である。また、本校には様々な家庭環境の生徒がおり、課題を抱える生徒も多く在籍している。これらの特色を鑑み、本校では以前から「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）」を研究主題として掲げている。他者を理解し尊重する価値観を育むことに重点を置いたSST（ソーシャルスキルトレーニング）に関する活動を年度初めに積極的に行うなど、「ESDで育みたい力」と関連の高い教育活動を実践している。現在の落ち着いた学習環境の持続可能性を高めるためにも、ESDの視点から授業改善を行うことは有用であると考え。今年度は、「ESDで育みたい力」「持続可能な社会に向けた価値観をもった生徒の育成」に取り組むという軸は変えずに、その中でも、学習に対する興味・関心を高め、「学びに向かう力」を育むために、「他者を尊重し学び合える生徒」を育てることを目指し、副主題を設定した。

2 実践の内容

(1) 研究組織・概要

校内研究推進委員会（校長・教頭・総括教諭・校内研担当・他8名）において校内研究の実施について計画した。2～3名ずつ校内研究推進委員が所属する4つのチームを構成し、全職員が各チームに所属した。チーム会議を年3回開催し、特設授業についての意見交換の場とした。校内研究担当者

は、年間3回「校内研だより」を発行し、校内研究の活性化に努めた。

(2) ESDへの理解を深める研修

宮城教育大学元学長の見上一幸氏を講師に招き、ESDへの理解を深める研修を行った。また「コミュニケーションを行う力」を育むための有効的な手法を各教科で協議した。「間違えても安心な雰囲気づくり」「相手に伝えたいくなるような題材の工夫」「自問自答する時間の確保」「誰とでも話せるグループ分けの工夫」など、様々な意見が出た。

(3) 授業研究

① 授業公開（通年）

特設授業者以外の全教員が7つの「ESDで育みたい力」のうち、重点項目である「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」と関連した授業公開を行った。

② 特設授業（1月31日）

4名の教員が、各チームや校内研究推進委員会で議論を重ね、以下のような授業を行った。

●「平面図形を回転させてできる立体の見取り図をかこう！」（1年数学）

回転体のイメージを話し合うことで、書き方を全体で共有することができ、数学を苦手としている生徒も問題解決に向けて取り組む姿が見られた。

●「マジックハンドが伸びるのはなぜか理解しよう」（2年数学）

「マジックハンド」の作成を通して、「マジックハンド」が伸びる理由を、図形の性質をもとに考えさせた。単元は証明が多く、苦手意識をもつ生徒もいたが、実際に作る活動を通じて、楽しみながら理解を深めている様子が見られた。

●「『おすすめの日本のお土産』につい

て、ヨシコ先生にカタログを作成しよう！」(2年英語)

文法や表現の正確さを見合うのではなく、カタログの内容や伝えたいことに注目してアドバイスを行う活動とすることで英語の得意・不得意に関係なく意見を出し合う姿が見られた。

●「災害時、何をするか書こう What will you do in a disaster?」(1年英語)

異なる立場の情報を交換するインフォメーションギャップの活動を行うことで互いの発言をしっかりと聞く姿勢やアドバイスを互いに行う姿が見られた。

(4) アンケートの実施

- ① 生徒向けアンケート(7月・2月)
- ② 教員向けアンケート(6月・2月)

3 実践の成果と課題

① 教員への研究主題の理解促進

「他者を尊重し学び合える生徒」の育成を図ることを重視して、教科学習において、重点項目である「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」を育むための手法を取り入れることを推進した。夏の研修会では、研究主題への理解を深める場を設けた。また、協議では、教科ごとに、「コミュニケーションを行う力」を育むための有効的な手法について話し合った。他にも、「校内研だより」を通して、研修会における要点のまとめや、推進委員会での話し合いで出た意見を載せ、「他者を尊重し学び合える生徒」を育成する授業について考える機会をつくった。

その結果、6月と2月に行った教員向けアンケートを比較すると、職員の授業づくりに対する意欲と、研究主題への理解度が上がっていた。ESDの視点に立ち、「他者を尊重し学び合える生徒」を育むための具体的なイメージをもっている教員の人数も増えていた。

② 持続可能な社会に向けた価値観を持った生徒について

	1回目 7月	2回目 2月
1, 私は授業に意欲的に取り組んでいる。	87.9%	86.2%
2, 私は授業で自分の考えを表現(書いたり、誰かに話したり、発表したり)する活動ができています。	72.2%	72.7%
3, 私は授業で他の人の考えを聞いたり、発表を聞いたりする活動ができています。	86.0%	82.9%
4, 自分とは違う意見から学ぶことがあると思う。	84.7%	87.8%
5, 他の意見や考え、他からの情報を得たとき、それをうのみにせず自分なりによく考え理解し、自分の考えに取り入れることができる。	77.3%	77.7%
6, 学ぶためにクラスメイトは大切な仲間だと思う。	90.6%	88.1%

※6件法の項目「1(あてはまらない)～「6(あてはまる)」のうち、「4～6」を選んだ生徒の割合を%で示した。

※肯定的な意見の割合が増加した項目は、黒塗りにしている。

上記資料3の質問2、4、5に関して、肯定的な意見の割合が増加していたことから、今年度1年間の研究推進によって、「自分の考えを表現すること」や「他者の意見から学び、自分の考えを深めること」ができるようになり、「コミュニケーションを行う力」や「他者を尊重する態度」が一定程度養われていることが示唆された。

4 今後の展開

「他者を尊重し互いに学び合える」授業をつくることは、社会に出ていくための資質・能力の向上に効果的であるという考えが、職員間で浸透してきたという結果を生かし、日々の授業で継続的に「コミュニケーションを行う力」や「他者を尊重する態度」を育む授業づくりを行いたい。これらの積み重ねにより、生徒の「学びに向かう力」を高めていきたい。また各教科の学習において「生徒の興味を引く題材を用いた学習」や「身近な事象と結びつけた学習」を行うことが、生徒の「疑問」や「学びたい」意欲を生み、「学びに向かう力」を育むきっかけになることを確認できた。本年度得たことを次年度に生かし、生徒が主体的に学び、学んだことを自身の生活や地域、社会に活かすことができる、探究型の学習に向けた研究を模索したい。